

研究発表と助成セミナー

吉川史子

私が日本中世英語英文学会の会員申し込みをしたのは、大学院の後期課程に入って間もなくの頃だったと思います。修士論文を提出してほっとしていた頃、次の目標として、本学会の西支部の研究発表に応募してはどうかと御指導頂いた今井光規先生が勧めて下さいました。その頃に本学会の会員にも加えて頂きました。本学会大会の研究発表に応募したのは博士論文を提出して口頭諮問を待っていた頃です。今度はもう一人の指導教官の渡辺秀樹先生が、大会の研究発表に応募してみてもどうかと勧めて下さいました。どちらの発表も大変緊張しましたが、その度ごとにいつも先生方が、未熟な私の研究発表をきちんと聴いて下さり、有益な御助言を下さいました。西支部で初めて発表させて頂いた時には、最初にヘルシンキコーパスに納められているテキストのファイル分けの編集方針に関する質問を頂きましたが、方針を思い出せず、きちんと答えることができませんでした。ますます緊張して困っておりましたら、私の指導教官の先生に頼まれて、西村秀夫先生が私でも答えられそうな質問を次にして下さい、「補足ですが」とおっしゃりながら先に私が受けた質問にも答えて助けて下さいました。また、その初めての研究発表の写真を下笠徳次先生が撮って下さり、わざわざ送って下さいました。

本学会で発表させて頂いたのは、平成12年12月に行われた関西大学での大会でした。「迂言的与格とウィクリフ訳聖書」という題目で発表させて頂きました。米倉純先生が司会をして下さり、私が話し終えた後、御意見や御質問を下さるよう先生方をお願いして下さいる際に、「まだ学生ですので」と優しく質問して下さいるようおっしゃって下さいました。このような発表の時ばかりでなく、いつこの学会に参加しても、また他の学会でお会いした時にも、中世英語英文学会においてになる先生方は、本当に親切に優しく未熟な私を今日までずっと導いて下さいました。ただ歴史と文法が好きで、騎士や修道女の世界にあこがれて中期英語の勉強を始めただけの私が、今日まで研究の目標を失うことなく、自分の未熟さとその学問の大きさに圧倒され、打ちひしがれそうになる度になんとか立ち直って勉強を続けてこられたのは、御指導下さった先生方と、この学会でいつも親切にして下さる先生方のお励ましのおかげです。

私がこの学会の活動で特に楽しみにしているのが、若手研究者育成のために毎年行われている「研究助成委員会セミナー」です。私は鳴門教育大学で行われた第2回セミナーから日本を離れていた年以外はずっと参加しています。いつも気にかかっていたものの自分一人ではなかなか勉強できなかったテキストや、史的音韻論、写本等について、講師の先生方が本当に魅力的な御講義をして下さいます。就職して講義に出ることが難しくなった時に、このセミナーに参加して、その研究にずっと専念していらっしゃった先生にわかりやすく教えて頂けるということがどんなに有り難いことであるかということを心から実感しました。鳴門教育大学でセミナーが行われた時は泊まりがけだったので、お世話下さった研究助成委員の先生方、同年代の参加者の皆様と特に親しくお話

しすることができました。その時の講師のお一人で、当時鳴門教育大学にお勤めでいらっしゃる向井毅先生がとても親切にして下さり、地元で人気のさぬきうどんのお店に連れて行って頂いたり、みんなで鳴門名物の渡し船に乗ったりしたことは今でもとても楽しい思い出となって私の心に残っています。

今年度からこの大好きなセミナーの委員としてお手伝いさせて頂けることになりました。気がつかないことの多い私が逆に皆様に御迷惑をおかけしはしないかと心配にも思いますが、これまで自分がお世話になったセミナーで、少しでも恩返しができると思っています。